

「なにか 折に触れてでも・・・」とお言葉に、おこがましくも以下に管見を綴ります。由来、物事に飽きっぽい我が身ながら、比較的続いているものに「修禊」と「日拝」とがあります。前者は昭和二十年八月十六日、つまり敗戦の日の翌日から。後者は確か昭和三十八年夏の修禊行事のある日以降ですが、両者共に今朝までの毎朝です（旅行等を除く）。

先ず動機から申しますと、父は「内地が戦場になっても、神武建国の功神賀茂武津之身尊の後裔である、彼らごときにぶざまな殺され方はするな」と家族に青酸カリを渡していただきましたので、学徒動員解除の当夜は間に合うようにと吉田山から紫野まで走ったわけです。が、「早まらずに、生きて祖国を再建せよとの正午の御錠。俺はこれを奉勅命令ととり、暫く様子をみる」との父の言で命は保ったものの、翌朝も気はおさまらず、元朝に我が家の男子がする流儀でバケツ三杯の禊をうけました。すると思いのほかに心身がすっきりしたので以後それが続いている次第です。かたや日拝のほうは北軽井沢の夏禊に、引率した十五人の女子高生の一人が霧の中の日輪を拝する姿に我が身を反省させられた日からです。

もともと、禊のほうはその後、元神宮皇学館教授、白峰神宮宮司石井鹿之助先生より例の川面凡児先生伝授の奈良朝以前からの秘流を学びそれに準じて受けています。戦前戦中を通して大政翼賛会などで川面流を国民体操型に化したものが実行され、神社本庁系の禊もその辺りと思われませんが、やはり本流とは裂帛の気迫において雲泥の差が認められます。在宅の禊のほかに夏は深山幽谷に、冬は海浜などに一人、あるいは友人、生徒、家族等とおよそ年に一度の割合で三十九年間行じました。その中には若いアメリカ人男女も二人います。海は主に日本海でですがインド洋（モウリシャス島）にも単身で赴きました。

禊は一日禊でも七日の禊行でも強制的に参加させる事は危険です。心臓や胃の不調から風邪の注意など道彦（指導者）の人格が重要です。まして七日の行は一日に玄米粥一合と梅干二個を朝夕に分けて頂き、他食なしですからお義理的に修行している人などは胃壁からの出血も起こってかなり危険です。とは言え、霊と肉との主導権争いの三日間を無事に超えると霊よく肉を制すると言った心境に進み出で、天も地もものみな麗しく、そこにいて嬉しくてたまらないと言った自己を体験できるのです。論より証拠として末尾に、一実例を示す事にして、次に日拝に移ります。

昔はお年寄りや幼な児がよくお日様を拝んでいらっしゃるところを見たもので、登校途次に私も新町野で目にしました。が、西洋の比較宗教学者等がそうした態度を庶物崇拜と断定して低級信仰と格付けした為か「教養（？）ある現代人」を自負する日本人はお日様を拝まなくなりました。勿論マルクスを妄信する自称進歩人もその類です。然し、お日様を無視し、砂をかけて、人も全生物も一体なにがどう出来るというのでしょうか。もちろん日照りや早魃、そして日射病と言った負の面はあっても、命にとってのプラス・マイナスの総決算では正の面が圧倒的です。なによりも植物の向日性がその証拠ですし、動物たる人間では肉体のみならず心の面においても日の光は活力と勇気の源泉です。元来わが国では日拝に体拝、心拝、そして霊拝の三相ありとし、体拝は一般人、心拝はその道の心得の

ある人、そして霊拝は天皇をはじめ行の進んだ神主の日拝とされて来ています。国史上では孝明天皇がご親任を篤く遊ばした黒住宗忠氏は日拝の直後に天照大神の御名によって多くの重病人を即座に治したと記録されています。後日勅命により御所内に黒住神社が建てられたと聞きます。

国民は自分たちが初日の出やご来光を拝むように陛下は四方拝やご日拝をあそばすのでは、と考え勝ちですが、日輪に天照大神を拝まれるということは、天子と地上全生命体の光がさながら鏡に対する如く相互に反射しつつ共に宇宙大的な感恩と感謝の霊境に進ませ給うという事であります。一言で言えば人を含む全生命体個々の総代のお勤めなのです。

では茲で蛇足のそしりを覚悟して、東京の一女子高校生（二年）の感想文を付記します。

「・・・先生から四方拝を教えていただいた。洗い浄めたからだで太陽を拝む。あたり一面は朝もやも消えていく。野鳥が朝を告げる。雑草の上に絞った襦袢を置き、先生のご指導によって迎えたこの一朝、生きている喜びが全身にいきわたる。—————
今の私がとっても幸福だった」飯塚 某

参考 自宅禊は道彦がえられれば風呂場のシャワー等で九月頃からが最適とされます。深山での行は八月の山をできる限り避けてください。まむしが噛み付きやすいです。もっとも、慣れてくれば、尾を踏まぬ限り友達のようになれますが・・・
冬の際は潮の流れを土地の方に確かめることが必須です。
禊はあくまでも足を洗って昇殿までの行でしかなく、本当のお行は畳の上での息とみたましずめ（鎮魂）です。賀茂の社家流の鎮魂は残念ながら我が家にはつたわっておりません。よろしければどなたか御教授ください。それまでは梅辻規清翁の断片資料に頼る以外に途なきものと思います。又我流でいきなりかぶると心臓が駄目。日拝の時間は五分から十分ぐらい瞑目で行うのがいいでしょう。因みに月拝も有難いものですがこれは瞠目でもかまいません。何年か続けさせていただくうちに色々の御教示を拝することもありましょう。

以上

別記

近年あちこちの古神道の書物に伯家の御行をお上げなされない天皇の御世が百年続けば、そのとき国体は滅びる。とあり、大正、昭和、平成と数えてここに九十六年。余すところはあと四年。勿論、妄説として無視も可能ながら、外、原爆所有国に囲まれ内、親殺し子殺し、代議士・社長・警官・教師の破廉恥行進に国家の液状化をみせつけられるとき、事、祭祀にかかわって来た一族に連なる者の一人として座視しえないものがあります。祈りを合わせて参りたいものであります。

以上